

平成13年3月30日

各位

会社名 ニチメン株式会社
代表者名 代表取締役社長 半林 亨
(コード番号 8004 東証第一部)
問合せ先 広報部長 古谷 良樹
(TEL 03-5446-1062)

平成13年3月期通期業績予想(連結・単体)の修正および配当に関するお知らせ

1. 平成13年3月期の業績予想の修正(平成12年4月1日~平成13年3月31日)

(1) 連結 (単位:百万円)

(参考)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純損益
前回公表予想(A)	2,500,000	24,000	20,000	3,000
今回修正予想(B)	2,500,000	23,000	17,000	▲20,000
増減額(B-A)	0	▲1,000	▲3,000	▲23,000
増減率	0%	▲4.2%	▲15.0%	—
前期(平成12年3月期)実績	2,861,907	20,545	23,352	2,936

(2) 単体 (単位:百万円)

(参考)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純損益
前回公表予想(A)	1,800,000	9,000	11,000	2,000
今回修正予想(B)	1,750,000	7,500	7,000	▲15,000
増減額(B-A)	▲50,000	▲1,500	▲4,000	▲17,000
増減率	▲2.8%	▲16.7%	▲36.4%	—
前期(平成12年3月期)実績	2,227,117	7,610	13,991	2,589

2. 修正の理由

当社は、従来より資産の効率化・健全化、有利子負債の削減などをスピードをもって進めて参りました。しかしながら、昨今の株式相場の低迷を受け、金融機関株を主とする上場有価証券に多額の含み損が発生しております。

本年4月からの新中期経営計画に万全の体制で臨むためには、当期中に当該含み損を一掃し、更なる資産の健全化を進めることが必要と判断致しました。このため、当下期において連結で約360億円、単体で約340億円の有価証券評価損を、特別損失として計上することとし、連結・単体の当期純損益について上記の通り業績修正を行います。

尚、単体の経常利益については、借入金の長期比率を高めたことによる支払い利息の増加などを主因として、上記の通り修正を行うものです。

3. 平成 13 年 3 月期の期末配当について

平成 13 年 3 月期の期末配当につきましては、昨年 11 月 16 日の中間決算発表時には未定としておりましたが、上記の業績予想の修正を踏まえ慎重に検討しました結果、見送ることとさせていただきます。

一株当りの配当額

	中間	期末	年間
前回公表(平成 12 年 11 月 16 日)	0 円 00 銭	未定	未定
今回修正予想	0 円 00 銭	0 円 00 銭	0 円 00 銭
(参考)前期の一株当り配当実施額	2 円 50 銭	0 円 00 銭	2 円 50 銭

(参考)

来期(平成 14 年 3 月期)の業績予想

本年4月からの新中期経営計画の初年度(平成 14 年 3 月期)業績予想は以下の通りです。

連結

(億円)	来期予想	当期見通し
売上高	25,000	25,000
売上総利益	1,370	1,320
営業利益	350	230
経常利益	275	170
当期純利益	120	▲200

単体

(億円)	来期予想	当期見通し
売上高	15,000	17,500
売上総利益	440	425
営業利益	130	75
経常利益	120	70
当期純利益	40	▲150

以上

【補足資料】

本業績予想修正における経常利益・特別損益・税引前当期純利益及び当期純利益

連結

	01/3 通期予想
経常利益	170
－特別利益	740
－特別損失 (内、投資有価証券処分・評価損)	▲1,220 (▲440)
特別損益計	▲480
税金等調整前当期純損益	▲310
当期純損益	▲200

単体

	01/3 通期予想
経常利益	70
－特別利益	830
－特別損失 (内、投資有価証券処分・評価損)	▲1,160 (▲410)
特別損益計	▲330
税引前当期純損益	▲260
当期純損益	▲150

(参考) 当中間期(00/4～00/9)での投資有価証券処分・評価損

連結

	中間期実績
－特別利益	419
－特別損失 (内、投資有価証券処分・評価損)	▲489 (▲76)
特別損益計	▲70

単体

	中間期実績
－特別利益	485
－特別損失 (内、投資有価証券処分・評価損)	▲522 (▲69)
特別損益計	▲37

以上